



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'98 9月号

こども観察会

〔雑木林の虫たち 8月9日 土屋〕

夏なのに肌寒いような気温だった8月9日、土屋の愛宕山でこども観察会が開かれました。この日のテーマは「雑木林の虫」。参加した親子26人で虫を探したり、スケッチをしたり、タマゴタケの行列にびっくりしたり、それぞれ発見の多い充実した時間を過ごすことができました。小学生の力作のいくつかを紹介しましょう。



エサキモンキ
ツノカメムシ

(大内ひろきくん)



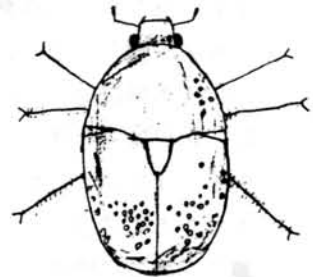
ツマグロオオヨコバイ (吉岡裕彬くん)



カブトムシ (磯部さきさん)



ガの幼虫 (宮本浩平くん)



シロテンハナムグリ (磯部大和人くん)



キアゲハの幼虫 (金松麗さん)

夏期特別展関連事業

シンポジウム「相模国府とその世界」の報告

■8月8日(土)と9日(日)の二日間、「相模国府とその世界」のタイトルのとおり、近年の発掘調査を織り交ぜながら、古代相模国の国府、郡衙や郷の実態を探るためのシンポジウムを行いました。会場となった平塚市中央公民館小ホール(定員250名)は二日間ともに満席になり、参加者の熱い思いやロマンが会場に漂っていました。

■シンポジウムに先立ち、基調報告が下記の日程で行ないました。

- 8日 「相模国府研究史」 荒井秀規氏(藤沢市教育委員会)
「相模国府所在地について」 明石 新(平塚市博物館)
「郡衙と郷」 大上周三氏(神奈川県立埋蔵文化財センター)
「国分寺と郡寺」 河合英夫氏(榑玉川文化財研究所)
- 9日 「文字の世界」 明石 新(平塚市博物館)
「土器から見る相模国府」 田尾誠敏氏(東海大学)
「武蔵から見た相模国府」 荒井健治氏(府中市教育委員会)

■9日の午後一番に、地方官衙研究の第一人者である山中敏史氏先生(奈良国立文化財研究所)をお迎えしての特別展記念講演「中央から見た相模国府」が行われました。板東の入口に位置する相模国の国府は中枢施設である国庁が未発見のため確定することはできない。しかし、足下郡や高座郡には国府所在地を示すような考古学的な成果がみられないことから、近年の大住郡(平塚市)の発掘調査事例によりその可能性は充分にあるとの見解でした。つまり、平塚には、国府所在地特有の特殊遺物が多く出土しており、特に「曹司」「鼓」「政所」などの文字資料は国府所在地を裏づけるものです。また、相模国府は武蔵国府と同様に8世紀前半の竪穴住居跡が非常に多いことが特徴と指摘されました。最終的には「物的証拠」にとどまるとの慎重な発言でした。

■記念講演会の後は、山中先生と基調報告者を交え、テーマを「奈良時代の相模国府所在地」と「平安時代の相模国の実態」の二つにしほりシンポジウムを行いました。前者のテーマでは、従来の国府三遷説、特に大住国府の移転の論点である地震による契機は認めがたいことが明らかにされました。また8世紀後半段階以降の国府は、平塚市にあったとする一致した共通の理解がなされたことに大きな意義があったと思います。

■後者のテーマについては、考古学的な成果が不十分であり、また文献史学側でも未開拓な分野であったために、活発な討論が展開されなかったことは残念ですが、少なくとも9世紀の相模国(坂東を含む)は、蝦夷征討のための軍事的な兵頓基地としての側面があったのではないかとの山中氏の指摘は、相模国で展開された古代集落を考える上で重要な提言であったと思います。特に、国府は人と物資を陸奥に送り込んだり、国衙工房で武器生産を行っているだけに、この時期の竪穴住居跡の軒数が多いことは、人口増加の結果と考えた場合、中央の政策が国府集落に投影されたものと思います。

■今回の二日間のシンポジウムには、市内はもとより、県内、県外から多くの方が参加されました。担当した本人自身が驚いているところです。相模国府と大変重たいテーマでしたが、それだけに関心の高いものであったと改めて実感しています。

今回のシンポジウムを通じて、まだまだやるべきことがたくさんあることが分かりました。国庁が確認されたとしても、国府の実態を解明していくには、長い道のりが必要です。一人で勉強するにしても限界があります。是非、皆様とともに勉強を積み重ねて、その実態を明らかにしていきたいと思っておりますので、是非ご協力を下さるようお願い申し上げます。(明石記)

自然観察入門講座「街の石材調べ」を実施して

7月30日・31日の両日、「街の石材調べ」を実施しました。参加者は10名と少なかったのですが、興味ある発見が数多くありました。ここでは、この行事について紹介しましょう。

街の中には、ビルやデパートの外壁や内装、住宅地の門柱や石垣、神社の鳥居、記念碑、石像やモニュメントなど、様々な場所に石材が使われています。こうした石材にはどんな種類があって、どこから産出したものなのか、どんな利用のされ方をしているのかを調べようとして企画しました。

博物館で1時間ほど岩石の種類について勉強した後、野外で実際に観察しました。まず、博物館の周辺にある石材をみてみました。博物館前にある噴水やたたきに使われている石材は、白色・ピンク色・赤色の粗い結晶からなる花崗岩類です。噴水の石材は茨城県筑波山の白い花崗岩が、噴水の周りの石材は岡山県万成のピンク色の花崗岩（アダメロ岩：白亜紀 8000万年前）と、北欧産と思われる赤色花崗岩（先カンブリア紀 10億以上前）が使われています。

博物館入り口横にある「ハイポーズ」の像は、赤い花崗岩で、ブラジル産の商品名カパオポニートと呼ばれています。教育会館前の宮沢賢治の記念碑には、台座が白い花崗岩が、球状部が黒色のはんれい岩（粗粒の深成岩）が使われています。教育会館南側の歩道には赤褐色の礫が使われ、秩父産のチャートと思われます。関東山地の黒色頁岩の礫も見られます。

美術館の入り口には赤みがかった球状の花崗岩が多量に用いられています。この石材はラパキピ花崗岩というフィンランド産のもので、13～17億年前に作られたものです。商品名をバルチック・ブラウンといいます。美術館内には灰白色の大理石が使われています。これはイタリア産のもので、トラバーチンと呼ばれています。

総合公園にもいろいろと石材が使われています。東入口のモニュメントは黒いカンラン石玄武岩で、溶岩が冷却するときに来た縦の割れ目（柱状節理）を利用したものです。公園内の水遊び場・西側のモニュメント・北側入口には白色の花崗岩が使われ、白い石英脈が後からしみこんだ跡や、黒色の雲母などの結晶がよく観察できます。

住宅地を歩くと、神社の鳥居や狛犬には白い花崗岩が、門柱には長野県霧ヶ峰付近の薄く剥がれる安山岩（鉄平石）が、石垣には相模川流域の川原石・箱根火山の溶岩である安山岩（根府川石）・緑色をした栃木県の凝灰岩（大谷石として有名）が、よく利用されています。

駅周辺には研磨された外国石材がたくさん使われており、目を楽しませてくれます。梅屋などには珊瑚などの化石が入った石灰岩も使われており、化石探しをしてもおもしろいでしょう。（森記）



▲ラスカ前の「星たちの明日像」の台座はアメリカ産閃長岩



▲ラスカ入口の床にはイタリア産の様々な色合いの大理石が使われている

博物館カレンダー

9月の行事予定

4	金	古文書講読会	講堂
6	日	民俗探訪会 地質調査会	土屋 特研究室
9	水	博物館実習(～17日)	館内
10	木	石仏を調べる会	特研究室
11	金	古文書講読会	講堂
12	土	◎ 漂着物を拾う会 ◎ 地質調査会 ◎ プラネタリウム「注目!しし座流星群」 (～11月8日)	海岸 野外 プラネ
16	水	裏打ちの会 地質調査会 プラネタリウム「学習投影」(～3月末)	科学室 特研究室 プラネ
18	金	◎ 古文書講読会 ◎ 寄贈品コーナー「実習生の展示」 (～10月30日)	講堂 展示室
19	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
20	日	◎ ろばたばなし ◎ 相模川の生い立ちを探る会	展示室 足柄峠
24	木	石仏を調べる会	特研究室
25	金	古文書講読会	講堂
27	日	古代遺跡を探す会	野外

◎は参加自由 ○は申し込み制 他は会員制

10月の行事予定

2	金	古文書講読会	講堂
3	土	○ 考古学講座	講堂
4	日	○ 民俗探訪会 ○ こども観察会 ○ 地質調査会	中井町 土屋 特研究室
8	木	石仏を調べる会	特研究室
9	金	古文書講読会	講堂
10	土	◎ 特別展「平塚の仏像」 (～10月25日)	特展室
11	日	地質調査会	野外
14	水	裏打ちの会 地質調査会	科学室 特研究室
16	金	古文書講読会	講堂
17	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
18	日	◎ 古代遺跡を探す会 ◎ ろばたばなし	野外 展示室
22	木	石仏を調べる会	特研究室
23	金	◎ 古文書講読会 ◎ 星を見る会「木星土星を見よう」	講堂 屋上
24	土	○ 考古学講座 ○ 天体観察会「星の写真」	講堂 屋上
25	日	相模川の生い立ちを探る会	谷峨
30	金	古文書講読会	講堂

●寄贈品コーナー

「嫁入り道具展」: 9月12日(土)まで
タンス、長持、ハサミ箱に代表される昔の嫁入り
道具を展示。さらに、明治中期の豪華絢爛たる色
打掛と、その形通りに縫い合わせて作られた保存
用の包み紙をぜひともご覧ください。
「五領ヶ台貝塚展(仮称)」: 9月18日(金)～10
月30日(金) 博物館実習生による展示です。

●プラネタリウム

「流星雨の降る夜」: 9月6日(日)まで
「注目!しし座流星群」:
毎年11月17日と18日に観測され、今年と来年に
は流星雨が発生する可能性もあるしし座流星群に
ついて解説します。
期間: 9月12日(土)～11月8日(日)
投影日時: 土日曜日の11時と14時
観覧料: 100円

●ろばたばなし

3人の語り部が昔話の世界へいざないます。
演目: 二人の王子(平塚市真土・四之宮の話)
天狗にさらわれた吾八(足柄上郡の伝説)
山男の手袋(長野県)
ならなしとり(岩手県)
期日: 9月20日(日)
時間: 午前10時30分と11時の2回
場所: 博物館1階展示室民家内
参加: 自由

参加者募集

●考古学講座

「モノの交流から見た平塚」をテーマに、縄文・
弥生・古墳・古代各時代の考古学を学びます。
期日: 10月3日、24日、11月7日、21日
(いずれも土曜日)
時間: 午後2時～4時
場所: 博物館講堂
定員: 100名(4回とも出席できる方)
申込: 往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号
を記入し、博物館「考古学講座」係へ。
〆切: 9月20日(日)

●こども観察会

日時: 10月4日(日)午後1時～4時30分
場所: 土屋神奈川大学周辺
対象: 小中学生及びその保護者に限る
申込: 往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号
を記入し、博物館「こども観察会」係へ
〆切: 9月20日(日)

●漂着物を拾う会

海岸へ流れ着いた生物や人工物を拾って調べます
日時: 9月12日(土)午前9時30分～11時
集合: 花水川橋平塚側たもと記念碑前
参加: 自由 *雨天時中止

あなたと博物館 23巻6号 通巻260号 発行 平塚市博物館 3000

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel.0463-33-5111 Fax.31-3949